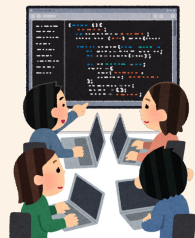


2025年度 SSH特設科目「SSII」

【第20回】 各自の研究活動

2025年12月16日（火）



専門的課題研究のイメージ

STEP1

研究テーマを決める

STEP2

リサーチクエスチョンを導く

STEP3

仮説を立てる

STEP4

適切な研究方法を選ぶ

中間目標

研究計画書を作成する

STEP5

調査・実験を実施する

STEP6

結果をまとめて考察し、結論を導く

STEP7

研究内容をまとめ、発表する

より高次のRQへ

高1
中間発表

探究
Day

生徒探究
発表会

step1

振り返り

step7

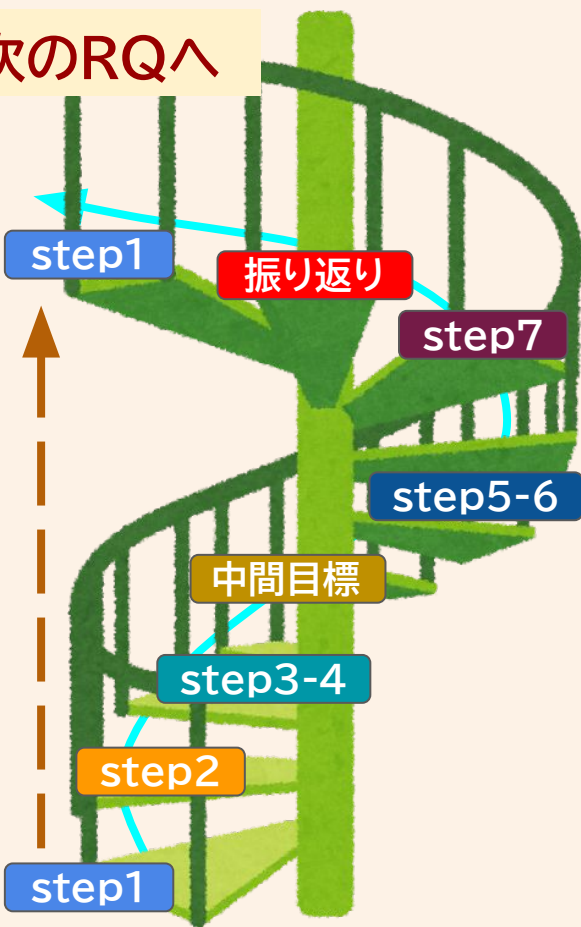
step5-6

中間目標

step3-4

step2

step1



「SS II」の評価

※発表の評価対象には発表資料(ポスター、スライド、研究要綱など)も含まれます。

知識・技能	専門的課題研究計画書兼報告書 探究DAY専門的課題研究中間発表(11月) 専門的課題研究成果発表(2月)
思考力・判断力・表現力	専門的課題研究計画書兼報告書 探究DAY専門的課題研究中間発表(11月) 専門的課題研究成果発表(2月)
主体的に学習する態度	探究ノート(通年) 探究DAY専門的課題研究中間発表(11月) 専門的課題研究成果発表(2月) 学年末の振り返り

今後の予定

11/11	第17回	課題研究活動（探究Day振り返り）※40分授業
11/25	第18回	課題研究活動（探究発表会に向けて）
12/9	第19回	
12/16	第20回	
12/23	第21回	ポスター制作
1/13	第22回	※40分授業
1/14（土）	ポスターデータ提出締切（これ以降の加筆修正は不可）	
2/10	第23回	
2/14（土）	生徒探究発表会	

ポスター作成について

【目的・概要】

一年間の研究成果を他の生徒や卒業生、保護者の方々、先生方などに向けて発表します。探究Dayの成果と課題を踏まえて、さらに調査・考察した内容を加えて発表用ポスターにまとめます。一年間の成果をしっかりと伝えられるように、興味を引き、分かり易い発表を行いましょう。

発表日時： 2月14日(土)

発表形態： 対面でのポスター発表

発表時間：「発表 6 分＋質疑 6 分」を行います。

ポスターの提出締め切り

SSⅡ授業内での最終確認：1月13日(火)

最終締切：1月24日(土)



アンケート実施ガイドライン

アンケート調査実施の流れ

火

アンケートの作成



指導教員に確認を依頼



指導教員によるチェック



OKの場合

(指導教員→SSⅡ主担当教員)

アンケート配信依頼



アンケートのClassroom配信



火

アンケートの実施

A. 基本ルール・倫理

✓	確認項目
	個人が特定できる質問（氏名、クラス、出席番号等）は一切含まれていないか？
	他者を不快にさせたり、公序良俗に反したりする質問は含まれていないか？
	センシティブな内容を扱う場合、指導教員と必要性を精査したか？

B. 依頼文・設問品質

✓	確認項目
	ガイドライン文例に沿った依頼文（目的、無記名、統計的处理、所要時間）を冒頭に記載したか？
	分析・考察に使用しない冗長な設問は削除したか？
	回答者の思考プロセスに沿った自然な設問の流れになっているか？
	特定の回答を促す「誘導尋問」になっていないか？
	1つの設問で2つのことを尋ねる「ダブルバレル」になっていないか？
	負担の大きい「自由記述」は、分析に不可欠なものに最小限化されているか？
	全員に回答を求める設問に「必須回答」の設定を行っているか？
	単一回答・必須回答の設問で、全回答者が必ず選択できる選択肢が用意されているか？

C. システム設定・テスト

✓	確認項目
	Googleフォームの「メールアドレスを収集しない」設定はオフになっているか？
	グループ全員で回答テストを実施したか？
	テストの結果、回答所要時間は「1～2分以内」に収まっているか？
	誤字脱字、分かりにくい表現はないか？
	分岐設定を使用した場合、

D. 最終承認

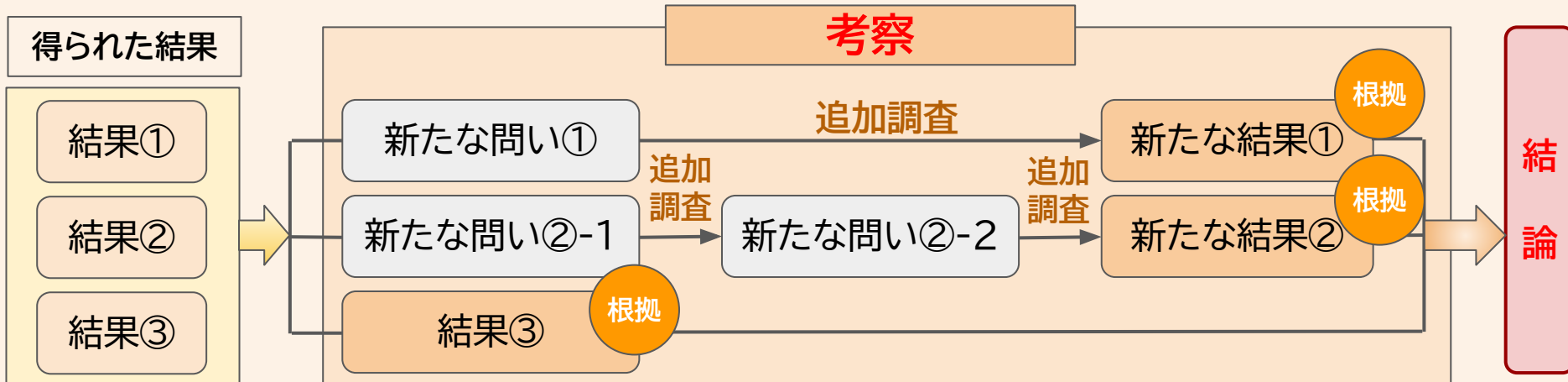
✓	
	指導教員に最終版を確認

**ガイドラインをよく読み、
適切に実施しましょう！**

考察の進め方（課題研究メソッド 第4章）

前提として、リサーチクエスチョンに対して、仮説を立て、
仮説を検証するための研究方法を選択して、結果が得られている。

→ **考察**とは、得られた結果を分析し、**結果に含まれる事実や
次の研究につながる問い、リサーチクエスチョンの答えとなる
結論を導く最重要ステップ**である。



研究方法まとめ（課題研究メソッド 第3章）

	特徴	メリット	デメリット
文献調査	● すべての研究において、研究テーマの理解や知識を深めるために、必ず必要な要素となる ● 調査対象は、書籍、論文、報告書、新聞、インターネット記事などさまざま ● 引用を正しく行う必要がある	● 盛んに研究・議論されている研究テーマであれば、対象となる資料の種類が豊富にある ● アンケート調査やインタビューを行わなくてもデータを収集できる ● さまざまな資料を調査することで、新たな発見の可能性もある	● 調べ学習に陥りやすい ● 資料が膨大にある場合、その取捨選択を行う必要がある ● 過去の情報を取り扱っているため、現状と異なる記述となっている場合がある ● 著者による偏りを防ぐため、複数の文献を用いる必要がある
アンケート調査	● 用意した質問項目に対して多数の調査対象者から回答を得る手法 ● 同時に多数の対象者への調査が可能	● 一度に多くの人から意見を集められるので、定量的な調査ができる ● 自由記述によって定性的な調査もできる ● 回答の記録がとりやすいので、ふりかえりを行うことができる	● 原則、やり直しがきかない ● アンケートフォームの書き方によって、質問の意図が正しく伝わらずに回答される可能性がある ● 求めている回答に誘導してしまう可能性がある ● サンプルングや結果分析に統計の知識・理解がないと誤った結果を導いてしまう

研究方法まとめ（課題研究メソッド 第3章）

	特徴	メリット	デメリット
インタビュー調査	- 調査対象者へ面接・対話を行い、会話の中から必要な情報を得る手法 - 主に少人数の対象者への調査が可能	- インタビュー中に新たな発見があり、質問項目を変えたい場合、臨機応変に対応できることもある - 質問の仕方によって、調査対象者の意見をさらに引き出すことができる	- 原則、やり直しがきかない - 求めている回答に誘導する可能性がある（アンケート調査でも、アンケートフォームの作成を誤ると生じる） - 記録をしっかりとらなければ分析が難しくなる - 聞きたいことをまとめて、適切な質問をする必要がある
参与観察・ 現地調査	- 問題や関心を抱いた組織やグループに一員として参加し観察する手法（例；インターンシップなど） - 実際に調査対象となる地を訪れ、試料収集や観察を行う（地学分野などでは巡検と呼ぶ）	- 組織やグループの外側から認識できなかった側面や実態を把握することができる - 文献のみでは理解が不十分な部分を補うことができる - 偶然の発見がある	- 対象となる団体数（サンプル数）が少なくなってしまうため、調査対象のグループや組織を一般化して語れるかという議論をする必要がある - 主観的な感想だけにならないよう、データを残すには技術が必要（→他の研究方法との組合せ） - 事前に調査地域に危険がないかなど、危機管理が必要

研究方法まとめ（課題研究メソッド 第3章）

	特徴	メリット	デメリット
実験	- 理論や仮説に対して実際にそれと同じ状況・条件を(人為的に)作ることで, データを測定・収集し, 検証を行う手法 - 自然科学分野でよく行われる - 人文・社会科学分野でも, ロールプレイなどの実験が行われる	実験方法に間違いがなければ実態を直接測定・観測することができる	- 実験の原理を理解していないと, 何を測定しているのか, 問題点も含め, わからなくなってしまう - 結果が得られないと, 研究自体がまったく進まなくなってしまう可能性がある